

2018年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

■2018年3月期通期業績予想の修正について

Q1：通期業績予想で修正した営業利益130億円（前回予想との比較）の内訳は？

A1：収入面では、前回予想と比較して180億円の増収となる。国際旅客では単価上昇を見込むものの、燃油サーチャージと為替影響により30億円の減収を見込む。国内旅客では、旅客数の増加などにより100億円の増収を見込む。費用面では、燃油費は為替・燃油市況前提の修正により80億円の減少を見込むものの、燃油費以外では、収入や需要に連動する費用の増加などにより130億円の増加となり、合計で50億円の増加を見込む。その結果、営業利益は前回予想と比較して130億円増益の見込み。

■国際線について

Q2：単価の状況は？

A2：レベニューマネジメントや構成変化により、第2四半期累計で前年対比7.7%上昇。

■国内線について

Q3：需要が強い。どう分析しているか？

A3：前年の熊本地震影響からの回復を中心とした団体需要の増加および前売り系運賃の利用増大による新規需要の開拓に加え、Wi-Fi無料化施策が奏功した結果、個人需要が増加し、第2四半期累計の旅客数は前年対比6.4%増加。

■今後の財務戦略・資本政策について

Q4：示した意義は？

A4：株主・投資家の皆様と双方向の建設的対話に向け、私どもの考え方をお示しするもの。自己資本比率は今期末で57.6%と、60%程度に到達し、強固な財務体質を構築できたと認識。

Q5：自社株買いの考え方は？

A5：一定水準の手元現預金の確保、将来の成長投資など資金の使い方およびフリーキャッシュフローの見通し、株価水準等を踏まえて、実施を検討する。

以上